

各 位

上場会社名 株式会社 サンワドー
 代表者 代表取締役社長 中村 勝弘
 (コード番号 7430)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 葛西 昭蔵
 (TEL 017-782-3200)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年4月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年2月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年2月21日～平成21年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,440	190	170	10	1.89
今回発表予想(B)	14,600	150	125	12	2.27
増減額(B-A)	160	△40	△45	2	
増減率(%)	1.1	△21.1	△26.5	20.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年2月期第2四半期)	14,546	97	74	△54	△10.28

平成22年2月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年2月21日～平成21年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,500	200	180	20	3.79
今回発表予想(B)	13,707	110	100	2	0.38
増減額(B-A)	207	△90	△80	△18	
増減率(%)	1.5	△45.0	△44.4	△90.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年2月期第2四半期)	13,674	78	79	△50	△9.52

修正の理由

1. 連結業績予想の修正理由

当第2四半期連結累計期間における連結業績予想の修正理由は次のとおりであります。

(1) 売上高の修正

当社グループの営業基盤であります青森県、北海道の経済環境は、有効求人倍率、失業率とも全国平均を下回る厳しさが続いており、消費行動の節約志向から、個人消費は相変わらず冷え込んでおります。

このような中、重点販売商品3,000品目を「家計応援」お買い得商品と位置づけ、エブリデーロープライス戦略を展開いたしました。

その結果、売上高は前回予想に比し1.1%増加し14,600百万円となる見通しであります。

(2) 営業利益の修正

エブリデーロープライス戦略の展開と、競合上の値引措置による影響があつて、売上総利益率が前年同期比約

1.1ポイント低下する見込となり、粗利益額が当初計画を下回る予想であります。

反面、販管費は人時生産性の向上による人件費の節減と、広告宣伝費の見直しを中心に削減に努めましたが、営業利益は前回予想値を下回り150百万円となる見通しであります。

(3) 経常利益の修正

営業利益の修正要因により、経常利益は125百万円となる見通しであります。

(4) 当期純利益の修正

当期純利益は、第1四半期に計上した棚卸評価損93百万円の特別損失に加え、第2四半期に行いました弘前樋の口店の食品部門の増設・改修にかかる固定資産除却損9百万円等の発生がありました。連結子会社であるワールドジャンボの純利益額10百万円が寄与し、前回公表予想値を20%上回る12百万円となる見通しであります。

2. 個別業績予想の修正理由

個別業績予想の修正理由は、連結業績予想の修正理由と同様であります。

3. 通期の業績予想

下半期の経済環境は引き続き厳しく、消費動向の好転は期待できないと見込まれますが、売上高は主要部門である食品が堅調に推移しており、リビング、ペット&グリーン、カー・レジャーの各部門は秋・冬商戦の取り組みによって当初計画の達成は可能と見通しております。

課題である売上総利益率は、仕入原価折衝による値入率の改善、商品ロスの削減に努め、売上総利益の計画達成を図ります。

さらに、販管費の削減を継続的に進めてまいりますので通期の業績見通しについては連結・個別とも変更いたして

おりません。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上